

第 I 部 東日本大震災

**【平成30年度分】東日本大震災に関する北九州市の主な支援状況
(平成31年3月31日現在)**

市職員の派遣	<p>■これまでの派遣状況（平成31年3月31日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発災からこれまでに4県18市町に560人（延べ33,316人日）を派遣。 （※現在派遣中の者を含む） ・本市は岩手県釜石市を中心に支援し、同市には407人（延べ31,901人日）を派遣。 																							
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">年 度</th> <th style="text-align: center;">派遣者数</th> <th style="text-align: center;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td align="center">～平成25年度</td> <td align="center">535人</td> <td>内、5名は24年度より継続</td> </tr> <tr> <td align="center">平成26年度</td> <td align="center">11人</td> <td>内、3名は25年度より継続</td> </tr> <tr> <td align="center">平成27年度</td> <td align="center">11人</td> <td>内、7名は26年度より継続</td> </tr> <tr> <td align="center">平成28年度</td> <td align="center">12人</td> <td>内、8名は27年度より継続</td> </tr> <tr> <td align="center">平成29年度</td> <td align="center">12人</td> <td>内、4名は28年度より継続</td> </tr> <tr> <td align="center">平成30年度</td> <td align="center">10人</td> <td>内、9名は29年度より継続</td> </tr> <tr> <td align="center">計</td> <td align="center">560人（延べ33,316人日）</td> <td>※現地採用嘱託職員を含む</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	派遣者数	備 考	～平成25年度	535人	内、5名は24年度より継続	平成26年度	11人	内、3名は25年度より継続	平成27年度	11人	内、7名は26年度より継続	平成28年度	12人	内、8名は27年度より継続	平成29年度	12人	内、4名は28年度より継続	平成30年度	10人	内、9名は29年度より継続	計	560人（延べ33,316人日）
年 度	派遣者数	備 考																						
～平成25年度	535人	内、5名は24年度より継続																						
平成26年度	11人	内、3名は25年度より継続																						
平成27年度	11人	内、7名は26年度より継続																						
平成28年度	12人	内、8名は27年度より継続																						
平成29年度	12人	内、4名は28年度より継続																						
平成30年度	10人	内、9名は29年度より継続																						
計	560人（延べ33,316人日）	※現地採用嘱託職員を含む																						
その他の 主な支援	<p>■平成30年度派遣状況</p> <p>派遣先：</p> <p>○岩手県釜石市 派遣者数：10名（現在活動中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州市・釜石デスク（2名） ※現地採用の嘱託職員1名を含む ・釜石市復興推進本部（4名） ・釜石市復興住宅整備室（1名） ・釜石市水産課（3名） 																							
	<p>■北九州市・釜石デスク（現地事務所）の設置（平成23年8月～継続中）</p> <p>支援に係る具体的なアドバイスや本市関係部局との連絡調整などを迅速かつ円滑に行うことを目的として、23年8月1日、釜石市役所内に課長職が常駐する「北九州市・釜石デスク」を開設した。 「支援先を特定し」「現地に常駐者を置く」本市の支援方式は、全国的にも珍しい。</p> <p>■釜石市のバックアップデータを北九州市で受け入れ（継続中） 釜石市の住民情報データを北九州市でバックアップ保管</p>																							

東日本大震災の被災地への中長期の職員派遣報告

〔派遣分野、活動期間、所属名（補職名）、氏名〕		頁
1	<u>釜石市（北九州市・釜石デスクに係る業務）</u>	7
活動期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日	
補職名	危機管理室危機管理課復興支援統括官	
氏名	牛島 慎一郎	
2	<u>釜石市（用地取得に係る交渉、登記、補償業務）</u>	11
活動期間	平成 29 年 4 月 25 日～平成 31 年 4 月 24 日	
補職名	危機管理室危機管理課主査	
氏名	原田 圭二	
3	<u>釜石市（区画整理、防集業務等に係る設計、監督等業務）</u>	15
活動期間	平成 29 年 4 月 25 日～（継続中）	
補職名	危機管理室危機管理課主査	
氏名	明松 誠一郎	
4	<u>釜石市（用地取得に係る交渉、登記、補償業務）</u>	19
活動期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日	
補職名	危機管理室危機管理課	
氏名	菅野 信幸	
5	<u>釜石市（復興住宅整備事業に係る業務）</u>	22
活動期間	平成 29 年 4 月 25 日～（継続中）	
補職名	危機管理室危機管理課主任	
氏名	荒川 恵子	
6	<u>釜石市（応急仮設団地集約化、応急仮設住宅の特定延長に係る業務）</u>	26
活動期間	平成 29 年 4 月 1 日～（継続中）	
補職名	危機管理室危機管理課	
氏名	三上 雅弘	

〔派遣分野、活動期間、所属名（補職名）、氏名〕		頁
<u>7 釜石市（漁港工事、漁港海岸工事等設計、監督等業務）</u>		29
活動期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日	
補職名	危機管理室危機管理課釜石復興支援担当係長	
氏名	末永 芳治	
<u>8 釜石市（水産業の振興に係る業務）</u>		31
活動期間	平成 29 年 4 月 25 日～平成 31 年 4 月 24 日	
補職名	危機管理室危機管理課主任	
氏名	藏本 英司	
<u>9 釜石市（用地取得に係る交渉、登記、補償業務）</u>		35
活動期間	平成 29 年 4 月 1 日～（継続中）	
補職名	危機管理室危機管理課	
氏名	中村 幸一	

大震災から 8 年が経過する釜石市の現状について

派遣先 北九州市・釜石デスク
所属 危機管理室 危機管理課
氏名 牛島 慎一郎
活動期間 平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

1 釜石市での業務

私は、昨年度に引き続き、北九州市・釜石デスクの復興支援統括官を務めています。釜石市の復興事業を担当する北九州市の派遣職員をしっかりとサポートするのが主な任務です。今年度に釜石市で勤務している北九州市の職員は 10 名です。釜石市役所での配属は、都市整備推進室に 3 名、生活支援室に 1 名、都市計画課に 1 名、水産課に 3 名、釜石デスクに 2 名で、釜石市の職員や他都市からの派遣職員と一体となって業務を行っています。

以下に平成 30 年度の釜石市の震災からの復興状況や釜石デスクの取り組み状況などを記載しました。

2 釜石市の復興状況

震災関連資料を収集している中で、釜石湾の津波の様子を沿岸のビルからハンディカメラで撮影した映像を見る機会がありました。最初は海の底が見えるぐらいまで海面が下がります。次に、海面がどんどん上がり、風呂の湯があふれるように、海水が防潮堤を越え、陸になだれ込むのです。建物や車などが次から次へと押し流されていきます。今度は、流れが陸から海へと変わり、陸上のあらゆる物が海へと引きずり込まれていきます。それが繰り返されるのです。この津波で釜石市の死者・不明者は 1,064 名に上りました。

【鶴住居（うのすまい）地区】

令和元年 9 月に開催されるラグビーワールドカップ（RWC）の試合会場として建設していた「釜石鶴住居復興スタジアム」が、平成 30 年 7 月末に完成しました。常設席は 6 千席で、RWC 本番では仮設スタンド 1 万席や大型ビジョンなども設置します。白い大屋根は、「羽ばたきの翼」や「船出の帆」をイメージしているそうです。



建設場所となった鶴住居地区は、東日本大震災で釜石市の中でも最も大きく被災した場所です。スタジアムの敷地（9 畝）に建っていた鶴住居小学校と釜石東中学校は津波で被災しましたが、近隣に高台を造成、新築し、平成 29 年 4 月に開校しました。震災後、この 2 校は、他の学校に間借りして再開、その後は同地

区の内陸部の仮設校舎で学習していたそうです。また、多くの市民が避難して津波の犠牲となった「鶴住居地区防災センター」の跡地では、「釜石祈りのパーク」や「津波伝承施設」が平成31年3月に開所しました。なお、津波伝承施設の名称は、派遣職員の中村幸一さんが応募した「いのちをつなぐ未来館」に決定されました。

3 交流事業

【釜石まるごと味覚フェスティバル】

地場産品のPRなど、釜石市の食の祭典である「釜石まるごと味覚フェスティバル」が10月6日に開催されました。毎年2日間で開催されていますが、今回は台風の影響で7日は中止となりました。会場は市中心部の「青葉通り」で、釜石市水産課が提供する炭火烧サンマ、地元の野菜やお菓子、友好都市の特産品などが出店し、多くの来場者でにぎわいました。北九州市も様々な特産品を用意し、産業経済局の大西理恵係長、仰木雅也主任、危機管理室の重吉桂司係長が釜石市に駆けつけました。これに派遣職員も加わり、北九州独特の人懐っこさで、顔見知りの人にはしつこく、知らない人にも気軽に声をかけ、2日間分の特産品を1日で売ってしまいました。釜石市では、北九州市が復興を支援していることを知っている人も多いので、そのお礼の気持ちで買ってくれた人もいたと思います。今後も、このようなイベントを継続し、釜石市と北九州市や友好都市との交流がもっと活発になることを期待しています。



【北九州市農林水産まつり】

11月23日と24日に小倉南区の総合農事センターで、地産地消の推進を目的に「北九州市農林水産まつり」が開催されました。釜石市は、北九州市からの復興支援に感謝の気持ちを伝えるために、東日本大震災以降の平成24年から毎年、このイベントに参加し、釜石サンマを北九州市民にお振る舞いしています。今年も釜石市で水揚げされた1,700匹の生サンマを北九州市に運び込むとともに、サンマの炭火烧に熟練した釜石市水産課職員10名も北九州市に来訪しました。この中には、北九州市の派遣職員で釜石市の水産課で勤務する末永芳治係長と中村幸一さんもいます。2人とも釜石市での勤務が長く、様々なイベントでサンマの炭火烧を経験した熟練者です。昨年と比べ、今年のサンマは好漁で型も大きく、脂がのっており、美味しかったこともあり、多くの市民が列に並びました。釜石市の支援活



動をしている北九州市立大学の学生たちも応援に来てくれたおかげで、焼き立ての熱々のサンマをスムーズに皆さんにお渡しすることができました。

また、「かまいし特産店」も出店し、釜石市の水産加工品やお菓子などを販売しました。今年は唐丹町漁協で生産された「三陸ワカメ」を初めて販売しましたが、美味しいと好評で準備した400袋は完売しました。

毎年、釜石サンマや特産品を楽しみに来訪している北九州市民も多く、このような両市の交流が今後も末永く続くことを期待しています。

4 釜石市の名所等

【橋野鉄鉱山】

北九州市の「官営八幡製鐵所」と同じく、世界遺産である「明治日本の産業革命遺産」の一つです。安政5（1858）年に操業した、日本最古の洋式高炉跡を見ることができます。また、インフォメーションセンターでは、当時の採鉱～運搬～製錬までの過程などを学ぶことができます。



【鉄の歴史館】

橋野鉄鉱山の高炉の遺跡を原寸大で復元した模型や岩手県盛岡市の出身で近代製鉄の父と言われる「大島高任（1826－1901）」の業績が紹介されており、釜石の鉄づくりの歴史について理解が深まります。また、製鉄の歴史は北九州市よりも古く、八幡製鐵所の建設の際に釜石製鐵所から職工など技術者が派遣されたことを紹介しています。

【釜石大観音】

釜石湾を眺望できる丘の上に建てられた展望台で、観音像の内部を階段で昇ります。海拔120mの高さから雄大な太平洋を望めます。また、東日本大震災で大きく損壊し、平成30年3月末に復旧が完了した「釜石湾口防波堤」も見ることができます。世界で一番深い場所（63m）の防波堤としてギネスの認定を受けています。



【釜石まつり】

10月19日から21日に毎年恒例の「釜石まつり」が開催されました。20日の「曳き船まつり」では、釜石湾の魚市場の岸壁に大漁旗などで飾られた14

隻の漁船が並んでいました。これらの漁船は対岸の尾崎神社に行って、ご神体を載せて戻ってくるのです。船上の人が打ち鳴らす太鼓や笛のお囃子を響かせ、漁船は次から次と岸壁を離れていきます。魚の街、釜石らしい勇壮なまつりだと感じました。21日は、尾崎神社のお神輿に加えて、新日鉄住金の釜石製鉄所の守護神社である山神社や地域のお神輿が市中心部を練り歩きます。釜石市の郷土芸能である虎舞の披露もあり、沿道は多くの人で賑わいました。釜石市役所のお神輿も参加しており、派遣職員の藏本英司さんと明松誠一郎さんは釜石市の職員らとともに元気にお神輿を担いでいました。透けるような美しい青空のもと、釜石まつりは、市民に復興への活力や元気を与えてくれたと思います。私もわくわくするような気分で東北の秋を楽しむことができました。



5 最後に

大震災から8年が過ぎようとする釜石市では、北九州市の派遣職員の努力もあって、ハード整備はほぼ完了しようとしています。今後は産業の再生が課題となっているようです。

このような中、釜石港は岩手県下初となるガントリークレーンの設置により、コンテナ取扱量が飛躍的に増加しています。岩手県内の工業集積地である県内陸部と釜石港を結ぶ復興支援道路は今年度末に全線が開通します。釜石港の利便性はより高まり、港湾関連事業者などの立地も期待できます。釜石市は北九州市と同様に物流拠点都市として発展していくべきだと思います。早急に将来を見据えた基本計画の策定が望まれます。

また、市職員の育成と優秀な職員の確保が必要だと思います。そのためにはワークライフバランスを推進し、魅力ある職場環境づくりが必要です。北九州市から女性の輝く社会推進室の岩田室長(1月)と神谷課長(7月)が釜石市を訪れ、釜石市の幹部職員等に北九州市の取り組み状況などを講演してくれました。



この結果、釜石市では4月に市長、副市長など幹部職員がイクボス宣言をするなど、働き方改革を推進するための様々な取組が行われています。今後も「撓まず屈せず」課題を乗り越えていって欲しいと思います。北九州市も引き続き、支援をお願いします。

信は力なり～釜石はラグビーの街（2年目）

派遣先 釜石市復興推進本部都市整備推進室

所属 危機管理室 危機管理課

氏名 原田 圭二

活動期間 平成29年4月25日～平成31年4月24日

※ NHKの名作ドラマ「坂の上の雲」第一話の冒頭部分を何度もご覧いただき、心の中で、名優「渡辺謙」の声色、口調で音読ください。（敬称略）

まことに大きな事業が、復興完遂期を迎えようとしている。

大きなといえば、ここ釜石の津波復興事業ほど大きな事業はなかったであろう。産業といえば漁業と鉄などがあり、人材といえば近代製鉄の父と呼ばれた大島高任や7年連続日本一に輝いたラグーマンなどがいた。

大島高任らによって、日本人ははじめて近代的な「鉄づくり」というものをもった。釜石の多くの人々が「鉄関係の人」になった。

不慣れながら「鉄関係の人」になった釜石の人たちは、日本史上の最初の体験者として、その新鮮さに昂揚した。

この痛々しいばかりの昂揚がわからなければ、この段階の釜石はわからない。

社会のどういう階層のどういう家の子でも、ある一定の資格を取るために必要な記憶力と根気さえあれば、漁師にも鉄関係の人にもラグーマンにも「あきらめない人」にもなりえた。この釜石の明るさは、こういう「撓まず屈せず」の精神から来ている。

よそから思えば実に意欲的なことに、魚と鉄とラグビーの他に主要産業のないこの釜石の市民が、ヨーロッパ先進国と同じラグビー場を持つとした。市民ホールTETTOも同様である。新市庁舎まで立つかもしれない。

が、ともかくも復興釜石を創り上げようというのは、もともと復興事業の大目的であったし、震災後の釜石市民の「ラグーマンのような希望」であった。

この物語は、その釜石市が九州における最も古い政令指定都市の北九州市やいろんな自治体等と協力し、どのように振る舞ったかという物語である。

主人公は、あるいはこの時代の釜石市復興推進本部都市整備推進室都市拠点復興係の用地担当ということになるかもしれない。

ともかくも、我々は6人の人物の跡を追わねばならない。

東北は、岩手の釜石に、6人の男がいた。

この古い港町に生まれた菅原良孝は、津波が起こるにあたって、決壊寸前に近いといわれた水門を閉めるために消防団員としての責務を全うする気持ちを奮い立て、それを実施するために現地に向かったものの、すでに締めてあったので引き返すことが出来、辛うじて避難に成功した。

鎌田圭亮氏

平成29年に新規採用職員として配属された鎌田圭亮は、日本の騎兵を育成せず、史上最強の騎兵といわれるコサック師団を破るという奇蹟も遂げず、なぜか半年で都市計画課へ異動した。仕事は確実。気質も誠実。面白味もある人物であり、青い車で遙か遠野市からの通勤であった。一緒に用地交渉に行った際、地権者の方はビールを飲み、私がリアス井（うに・いくら井）を食べ、彼は牛井を食べた。



平成29年度当初は管理係にいたものの、鎌田が異動となったために都市拠点復興係へ課内異動となった植田真治は、鎌田の残した仕事を引き継ぎ発展させ、これを実施した。身長は高いが、腰は低い。彼も遠く住田町からの通勤であった。釜石伝統の虎舞の名手であり、東京ドームでも熱演し、「虎だ！虎だ！俺は虎になるのだー！」が口癖であった。また、テレビでおなじみの某有名弁護士の息子とは昵懇の仲であった。

司法書士・伊東光氏

4人目は平成30年7月より、それまで水産課で職員として大活躍していた伊東光（ひかる）司法書士にかわり都市拠点復興係に赴任した、敏腕司法書士、松田克己。鬼のチェックで係のアンカーとして適正事務をサポートしてくれた。休日は市民プールで泳ぐ名スイマーでもあった。なお、伊東氏は自転車で坂を下るのが大好きであった。



5人目は、菅野信幸。北九州市からの派遣職員で定年後の釜石入りとなった人物。所持する不動産関係の免許・資格証が多く、ショルダーバッグに交渉の書類を入れるのに邪魔になるほどで、市役所経歴のほとんどが用地と課税というスペシャリストであった。

もうひとり、俳句、短歌といった日本の古い短詩型に新風を入れてその中興の祖になった俳人正岡子規や、一休宗純を敬愛する、私、原田圭二である。釜石赴任が決まるにあたり、往年の名ドラマ「ス〇ール☆ウォーズ」でラガーマンの魂を宿そうとするほどの努力家であり、皇居にも植えられていると言われる釜石市の市の花「はまぎく」

の花言葉が「逆境に立ち向かう」であることを知り涙する、熱血漢であった。

彼らは、復興事業の担い手という用地マンの体質で、地権者様の顔色を窺いながら歩く。登っていく合同庁舎の3階に、もし盛岡法務局宮古支局があるとしたら、それのみを見つめて、エレベーターで昇ってゆくであろう。

* * * * *

ということで、この2年間復興推進本部の一員として、用地買収等を行ってきました。震災から6～7年目の用地担当としての仕事は、いまや全国的な問題となっている「所有者不明の土地」に直面するものであり、未だ抜本的な法改正のない中、これに対するノウハウが蓄積された2年間でした。

携わっていたのは、津波復興拠点整備事業（東部地区）。これは被災した土地を買収し、嵩上し、土地の区画や道路を引き直した後、再度分譲するという事業です。本事業では復興のスピードを重視するため、土地を「買ってから作る」ではなく、「作りつつ買う」という方式でした。つまり、買収対象の用地は、使用中の土地であるがために、契約が難航した場合であっても「収用」には馴染まない性質のものでした。また、どれも分譲予定となる複数の画地に跨るため、任意買収に失敗すると、その影響は大変大きくなるという性質を持っていました。

昨年度も今年度も仕事は、7年越しの難航案件が中心でした。遺贈のない多人数共有の買収においては、①法定相続での契約か②遺産分割協議により権利者を確定させての契約が通常ですが、その法定相続人の中に猛烈な反対者や無反応者がいる場合、いつまで経っても権利関係（持分）が確定せず、契約ができません。今年度の案件は、まさにこれで、類似した3件の共有案件について、あまりの難航状態から、家事事件手続法（家事審判法にかわり平成25年に施行された）を利用して解決することとしました。

旧法では、遺産分割調停事件は「乙類事件」として分類されており、「調停に代わる審判」が出せなかったため、無反応者がいる場合は解決が困難だったのですが、新法ではいわゆる「別表第2事件」として新たに整理され、「調停に代わる審判」が出せるようになったため、これを利用したのです。

この手法の採用条件のうち一番のネックは、調停費用は申立人（地権者）持ちということです。弁護士の事務手数料や報酬等、申立人は少なからず経済的負担を強いられます。赤字となる場合もあり得る上、最悪「望む結果に至らないことも有り得る」という巨大なリスクも背負うことになります。

この難関をクリアしてようやく正式申立となるのですが、その後も各相続人に対するの説明を尽くしつつ外堀・内堀を埋めて行き、弁護士とも連携し、なんとか「調停に代わる審判」を得ることに成功しました。審判に至るまでも大変でしたが、審判後

も、特別送達を受領がうまく行かず、即時抗告期間の起算開始が遅れるトラブルがありました。これも適時適切に対応し、無事解決、登記完了に至りました。

もちろん、この3件の他にも仕事は多々ありましたが、偶々、人と運（タイミング）に存分に恵まれ、ペアだった菅野さんの分も含め、必須案件は全て任意買収を完了出来ました。これは、地権者様はもちろんのこと、弁護士、司法書士、家庭裁判所、法務局、そして復興推進本部の仲間、いろいろな方々のご理解とご協力があったることだと感謝しております。

ところで、六三四の剣や、龍—RON—といった、村上もとか作品を愛読していた私としては、生の岩手弁をもっと聞きたかったです。おぼんです、おらほ、お茶っこ、〜ケロ等は、比較的に聞けましたが、前述作品に出ていた、おしよすい、ぺっこ、こんぬつは、めんこい、〜でガンス、まんず等は聞けませんでした。

さて、釜石市は復興完遂期から、いよいよ飛躍発展期へ向かいます。

係の仕事としては、買収の完了した土地の分合筆事務、新区画の売払事務が大量に残っています。なるべく多くの方に利用していただき、賑わいを取り戻してもらえることを期待しています。

釜石港はガントリークレーンの影響なのか、うなぎ上りの絶好調。2019年3月には東北横断自動車道釜石秋田線の全線開通、三陸鉄道リアス線開通（盛〜釜石〜久慈）や9月にはラグビーワールドカップ2019釜石開催、また、将来的には新市庁舎建設も期待されている等、大事業が多く控えています。釜石のさらなる大飛躍、大発展を大期待しています。

この2年間は大変貴重な体験になりました。ありがとうございました。

上段左から

植田さん（ダ）

松田先生

菅野さん

下段左から

原田（本人）

菅原係長（ダ）

※（ダ）は

ダイエット中

※色紙は前述名優の

もの

